



微型展「實體小百科 日本海藻標本集」

— 國立臺灣博物館の場合 —

北山太樹・許 毓純

台北市中正区に位置する國立臺灣博物館 (National Taiwan Museum) は、台湾が日本の統治 (支配) 下にあった 1908 (明治 41) 年 10 月に「臺灣總督府民政部殖産局博物館」として設立され、今年 10 月に開館 110 周年を迎えた。設立当初の館長は「マリモ」の命名で知られる川上瀧彌 (1871–1915) であったが、1915 年 8 月 20 日に現在の建物 (図 1) が開館した翌日、過労のため病死した。台湾民主化後の 1999 年から現在の名称になった今も、同館は川上を初代館長として位置づけている。このように草創期に日本と深い縁をもつこの博物館は、日本が関係する常設展示が少なくないうえに、日本の自然をテーマにした企画展が行われることがあり、訪台の際に見逃すことのできない施設である。最近では、昨年末から今年 2 月まで企画展「川上瀧彌與阿寒湖的自然」が開催され、はじめて台湾にマリモ (台湾に分布しない) が水槽展示されるなど台湾市民の関心を集めているところである。

そしてこの夏、同館が日本の自然をテーマに南門園區の紅



図 1 國立臺灣博物館本館 (台北市)。台湾政府から国定古跡の指定を受けている (撮影: 北山明子)。

樓館で展示したのが「實體小百科 日本海藻標本集」と題した微型展 (ミニ企画展) である (図 2)。使われた標本は、国立科学博物館植物研究部 (TNS) がこれまでに発行した海藻標本集 “Algae Marinae Japonicae Exsiccatae (日本産海藻類エキシカータ集)” 第 1 ~ 8 集 (2002–2016) (北山 2008) から選ばれた 8 点で、外部形態に著しい特徴がみられる海藻ばかりである。台湾沿岸は、基隆周辺を除けば亜熱帯性の海藻相のため、展示されている海藻種のほとんどが台湾人に馴染みのないものが多い。しかも亜寒帯性や温帯性の種のほうが大型になる傾向が強いので、初めて見る台湾の来館者には海藻がもつ色や形の美しさや面白さを感じてもらえたと思う。

残念ながらこの企画展は終了してしまっただが、展示された海藻標本は同館植物標本室 (TAIM) に保管されているので、関心のある方は来台前に、第二筆者、同館研究組助理研究員の許 (E-mail: ychsu@ntm.gov.tw) へ連絡いただきたい。

引用文献

北山太樹 2008. 日本産海藻類エキシカーター国立科学博物館の場合— 藻類 56: 225–227.

(国立科学博物館・國立臺灣博物館)

【國立臺灣博物館 本館・南門園區】

所在地: 10046 臺灣臺北市中正區襄陽路 2 號 (二二八和平公園内)。南門園區は南昌路一段 1 號。開館時間: 午前 9 時 30 分~午後 5 時。休館日: 毎週月曜日、旧暦の大晦日・元旦 (ただし、月曜日が国定休日の場合は平常通り開館)。入館料: 大人 20 元、子供 10 元。軍人・警察官・学生、6 ~ 12 歳の児童、20 人以上の学校や機関の団体は半額。6 歳・小学生未満、65 歳以上は平日無料。心身障害者とその同伴者 1 名は無料。閉館時刻の 30 分前から無料。交通: 本館は台北駅または MRT (捷運) 淡水信義線 (赤線) 台大醫院駅から徒歩 5 分。南門園は MRT 淡水信義線中正紀念堂駅から徒歩 5 分。Tel: +886-2-2382-2566 (代表)。URL: <https://www.ntm.gov.tw>。



図 2 ミニ展示「實體小百科 日本海藻標本集」。國立臺灣博物館南門園區にある紅樓展示館の 1 階に展示された。